

科目名	ホームルームⅠ			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	14
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	インターンシップ、就職活動に必要なスキルを理解し実行力を養う 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標 (到達目標)	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	ディクテーション/インターンシップ		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
3	ディクテーション/インターンシップ、企業訪問準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
4	シャドーイング/インターンシップ、企業訪問準備		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
5	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
6	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
7	シャドーイング/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
8	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
9	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
10	リード&ルックアップ/就職活動について		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
11	リード&ルックアップ		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
12	瞬間発話プラクティス		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
13	瞬間発話プラクティス		スタディサプリENGLISH、SUCCESS活用		
14	授業のまとめ、評価				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

科目名	ホームルーム II			方法	講義
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	14
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	インターンシップ、就職活動に必要なスキルを理解し実行力を養う 英語スキルの習得（スタディサプリを用いた授業展開）				
学習目標 (到達目標)	基礎英語スキルの獲得及び就職進路に向けたビジネススキルの獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	SUCCESS、実践ビジネスマナー、スタディサプリ				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	ディクテーション／就職活動		スタディサプリENGLISH		
3	ディクテーション／就職活動		スタディサプリENGLISH		
4	ディクテーション／就職活動		スタディサプリENGLISH		
5	ディクテーション／就職活動		スタディサプリENGLISH		
6	シャドーイング／試験対策		スタディサプリENGLISH		
7	シャドーイング／試験対策		スタディサプリENGLISH		
8	シャドーイング／試験対策		スタディサプリENGLISH		
9	シャドーイング／試験対策		スタディサプリENGLISH		
10	シャドーイング／試験対策		スタディサプリENGLISH		
11	インターンシップ、セカンドキャリア				
12	インターンシップ、セカンドキャリア				
13	インターンシップ、セカンドキャリア				
14	授業のまとめ、評価				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	演習Ⅰ			方法	演習
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	①卒業研究、テーマを決定②ビジネススキルの理解と習得 自身の興味関心、専門分野に対して研究テーマを決めて実践する。ビジネス教養のスキルを身につけるために課題レポートを作成する。				
学習目標 (到達目標)	専門分野とビジネススキルの知識と技術を習得し進路決定に役立てる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション				
2	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
3	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
4	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
5	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
6	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
7	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
8	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
9	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
10	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
11	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
12	卒業研究テーマの選定、情報収集/ビジネススキル				
13	授業のまとめ				
14	授業の振り返り、評価				
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	演習 II			方法	演習
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	①卒業研究、テーマを決定②ビジネススキルの理解と習得 自身の興味関心、専門分野に対して研究テーマを決めて実践する。ビジネス教養のスキルを身につけるために課題レポートを作成する。				
学習目標 (到達目標)	専門分野とビジネススキルの知識と技術を習得し進路決定に役立てる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション				
2	卒業研究作成/ビジネススキル				
3	卒業研究作成/ビジネススキル				
4	卒業研究作成/ビジネススキル				
5	卒業研究作成/ビジネススキル				
6	卒業研究作成/ビジネススキル				
7	卒業研究作成/ビジネススキル				
8	卒業研究作成/ビジネススキル				
9	卒業研究作成/ビジネススキル				
10	卒業研究作成/ビジネススキル				
11	卒業研究作成/ビジネススキル				
12	成果発表準備				
13	成果発表準備				
14	成果発表、授業の振り返り、評価				
15					
16					
17					
18					
19					
20					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	選択授業Ⅰ			方法	講義/演習
担当教員	大橋一麻、藤沼到		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	選択必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	選択科目。学生の興味関心と知識・技術を深く学ぶための授業展開をする。 選択科目を設定し、専門分野の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	科目、分野を専攻し自己成長や興味を追求しキャリア教育、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	2科目選択（サービス接遇、映像、トレーナー、業界研究、英会話）				
3	〃				
4	〃				
5	〃				
6	〃				
7	〃				
8	〃				
9	〃				
10	〃				
11	〃				
12	〃				
13	〃				
14	〃				
15	〃				
16	〃				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	選択授業Ⅰ			方法	講義/演習
担当教員	大橋一麻、藤沼到		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	選択必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	選択科目。学生の興味関心と知識・技術を深く学ぶための授業展開をする。 選択科目を設定し、専門分野の理解を深める。				
学習目標 (到達目標)	科目、分野を専攻し自己成長や興味を追求しキャリア教育、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	2科目選択（トレーナー、企業演習、イベント実践、マーケティング）				
3	〃				
4	〃				
5	〃				
6	〃				
7	〃				
8	〃				
9	〃				
10	〃				
11	〃				
12	〃				
13	〃				
14	〃				
15	〃				
16	〃				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	コーチング実践Ⅰ			方法	演習
担当教員	大橋 一麻、藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	指導者、インストラクターとしての資質や指導力の理解と指導を学ぶ。 安全でスポーツの楽しさを伝えられる指導力を身につける。 スクールなどの指導場面で指導案、実践形式で授業展開をする。				
学習目標 (到達目標)	生涯スポーツ、ボードスポーツの普及活動ができる指導力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション				
2	スケートボード/フィジカルトレーニング				
3	スケートボード/フィジカルトレーニング				
4	スケートボード/フィジカルトレーニング				
5	スケートボード/フィジカルトレーニング				
6	スケートボード/フィジカルトレーニング				
7	スケートボード/フィジカルトレーニング				
8	スケートボード/フィジカルトレーニング				
9	スケートボード/フィジカルトレーニング				
10	スケートボード/フィジカルトレーニング				
11	スケートボード/フィジカルトレーニング				
12	スケートボード/フィジカルトレーニング				
13	スケートボード/フィジカルトレーニング				
14	スケートボード/フィジカルトレーニング				
15	スケートボード/フィジカルトレーニング				
16	スケートボード/フィジカルトレーニング				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
考査60% (試験60点以下の場合追試対象) 平常点40% (学習意欲、取り組み、理解度、出席率) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	コーチング実践Ⅰ			方法	演習
担当教員	大橋一麻、藤沼到		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業と遠隔授業の併用実施				
授業概要、目的、授業の進め方	指導者、インストラクターとしての資質や指導力の理解と指導を学ぶ。 安全でスポーツの楽しさを伝えられる指導力を身につける。 スクールなどの指導場面で指導案、実践形式で授業展開をする。				
学習目標 (到達目標)	生涯スポーツ、ボードスポーツの普及活動ができる指導力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション				
2	スケートボード/フィジカルトレーニング				
3	スケートボード/フィジカルトレーニング				
4	スケートボード/フィジカルトレーニング				
5	スケートボード/フィジカルトレーニング				
6	スケートボード/フィジカルトレーニング				
7	スケートボード/フィジカルトレーニング				
8	スケートボード/フィジカルトレーニング				
9	スケートボード/フィジカルトレーニング				
10	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
	スケートボード/フィジカルトレーニング				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
考査60%（試験60点以下の場合追試対象） 平常点40%（学習意欲、取り組み、理解度、出席率） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年				

科目名	トレーニングⅡ			方法	実技
担当教員	大橋一麻		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	28
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	可動域、コーディネーション能力向上を中心に行い、専門的動作に繋げる運動力の向上と自身の動作分析を行い、自身の運動パターンの理解と改善点を見つける目を養う。後期には専門的技術トレーニングが始まり、後期の主となるトレーニング授業となる為、後期は感覚へのトレーニングを中心に行う。				
学習目標 (到達目標)	専門的動作に繋げる運動力の向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・トレーニング指導者テキスト(理論編) ・パーソナルフィットネストレーナーマニュアルV3				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎体カトレーニング		持久力向上		
2	基礎体カトレーニング		持久力向上		
3	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
4	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
5	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
6	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
7	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
8	ウェイトトレーニング		競技特性に合わせたトレーニングの展開		
9	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
10	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
11	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
12	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
13	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
14	コーディネーショントレーニング		基礎フィジカル向上・体幹強化、身体の使い方		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	スノーボード日本代表選手専属トレーナー5年、デフリンピックスノーボードフリースタイル日本代表トレーナー10年/プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年				

科目名	専門トレーニングⅠ			方法	実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	126
授業概要、目的、授業の進め方	競技基礎技能の理解・基礎体力・持久力の向上。				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎エクササイズ		体幹部トレーニング		
2	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
3	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
4	ミドル走		中距離でのハイペース域でのランニング		
5	球技		サッカー・バスケ・テニスなどの球技による体の使い方の向上		
6	競技基礎技能の実技実習		応用バランストレーニング		
7	球技などを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
8	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
9	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
10	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
11	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
12	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
13	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
14	スノーボードオフシーズントレーニング基礎		小布施quest技術基礎練習		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	専門トレーニングII			方法	実技
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	126
授業概要、目的、授業の進め方	競技基礎技能の理解・応用競技の研究・基礎体力・持久力の向上。				
学習目標 (到達目標)	トレーニングを通じて、身体への知識を増やし競技力の向上。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基礎エクササイズ		体幹部トレーニング		
2	ロングラン		6キロ程度の距離を心拍数管理のもとランニング		
3	ミドル走		中距離でのハイペース域でのランニング		
4	球技		サッカー・バスケ・テニスなどの球技による体の使い方の向上		
5	競技基礎技能の実技実習		応用バランストレーニング		
6	応用技術の研究と発展		実技技能への転換講習		
7	球技などを元に身体の巧み性を構築		各学生の得意・不得意な動作の分析		
8	スケートボードを使い体の使い方や外力の活かし方の擬似練習		各学生の運動に必要な神経的な分析		
9	スノーボードを使い体の使い方や道具の特性を構築		各学生の技術力と目標の摺り合わせる所を分析		
10	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
11	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
12	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
13	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
14	スノーボードオフシーズントレーニング基礎・応用		小布施quest技術基礎・応用練習		
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)			怪我の防止・熱中症への対策。		
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年				
実務経験教員の経歴	新潟県スキー連盟スノーボード競技強化部長4年、SSコーチ8年、オールアルビレックスコーチ5年				

科目名	スケートボードⅠ			方法	実技
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	140
授業形態	対面授業の実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボード実技。スケートボードに親しむこと、成長体験、過程を理解し技術を身につける。 ライセンス検定の種目、検定合格に向けた授業、デジタルツールを利用した授業を展開する				
学習目標 (到達目標)	他者へスケートボードの楽しさ、魅力を伝えられる能力を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ライセンス検定				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、安全面、リスク管理				
2	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
3	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
4	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
5	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
6	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
7	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
8	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
9	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
10	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
11	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
12	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
13	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
14	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材				
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。（出席率80%以上） ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A（秀 80点以上）B（優 70点以上） C（良 60点以上）D（不可 60点未満）					
実務経験教員の経歴	デフリンピックスノーボードコーチ指導				

科目名	スケートボードⅡ		方法	実技
担当教員	藤沼 到	実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	2	開講時期
必修・選択	必修	単位数	—	時間数
授業形態	対面授業の実施			
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボード実技。スケートボードに親しむこと、成長体験、過程を理解し技術を身につける。 ライセンス検定の種目、検定合格に向けた授業、デジタルツールを利用した授業を展開する			
学習目標 (到達目標)	他者へスケートボードの楽しさ、魅力を伝えられる能力を習得する			
テキスト・教材・参考図書・その他資料	ライセンス検定			
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方、安全面、リスク管理			
2	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
3	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
4	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
5	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
6	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
7	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
8	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
9	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
10	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
11	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
12	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
13	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
14	基本トリック、ライセンス検定、デジタル教材			
15				
16				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)				
実務経験教員の経歴	デフリンピックスノーボードコーチ指導			

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	469
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺エリアスキー場を中心に練習を行い、11月下旬から長野県エリアスキー場中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、大会、資格取得対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	春の雪上トレーニング①		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
2	春の雪上トレーニング②		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
3	春の雪上トレーニング③		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
4	雪上トレーニング④		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
5	雪上トレーニング⑤		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
6	雪上トレーニング⑥		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
7	雪上トレーニング⑦		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
8	雪上トレーニング⑧		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
9	雪上トレーニング⑨		赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策		
10	雪上トレーニング⑩		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
11	雪上トレーニング⑪		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
12	雪上トレーニング⑫		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
13	雪上トレーニング⑬		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
14	雪上トレーニング⑭		大会への調整、資格対策・検定		
15	雪上トレーニング⑮		大会への調整、資格対策・検定		
16	雪上トレーニング⑯		全日本選手権への調整、資格・検定		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年				

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	雪上実習 II			方法	実習
担当教員	滝沢 光		実務授業の有無	有	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	469
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	スノーボード技術基礎を学び、大会、資格取得、技術向上を目指し練習を行う。 春は学校周辺エリアスキー場を中心に練習を行い、11月下旬から長野県エリアスキー場中心とし、大会シーズン、検定シーズンとなる2月をめがけ、大会、資格取得対策、練習を行う。				
学習目標 (到達目標)	スノーボード技術の向上及び、学生大会優勝、全日本選手権入賞、インストラクター資格の取得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	春の雪上トレーニング①		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
2	春の雪上トレーニング②		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
3	春の雪上トレーニング③		LOTTE AEAI RESORTにて基礎技術練習、進級生においては新たな技術の獲得。		
4	雪上トレーニング④		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
5	雪上トレーニング⑤		軽井沢プリンスホテルスキー場にて板の操作性 板のチェック		
6	雪上トレーニング⑥		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
7	雪上トレーニング⑦		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
8	雪上トレーニング⑧		焼額山スキー場にてフリー滑走能力の向上、ギアのチェック		
9	雪上トレーニング⑨		赤倉観光リゾートスキー場にてフリー滑走能力向上 資格対策		
10	雪上トレーニング⑩		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
11	雪上トレーニング⑪		赤倉観光リゾートスキー場、黒姫スノーパークにてフリー滑走能力向上、資格対策		
12	雪上トレーニング⑫		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
13	雪上トレーニング⑬		黒姫スノーパーク、よませ温泉スキー場にてオフシーズン練習トリックの確認、大会への調整、資格対策		
14	雪上トレーニング⑭		大会への調整、資格対策・検定		
15	雪上トレーニング⑮		大会への調整、資格対策・検定		
16	雪上トレーニング⑯		全日本選手権への調整、資格・検定		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴	プロスノーボード選手11年目・スノーボード選手育成歴8年				

②

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	業界実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	100
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方				
2	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
3	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
4	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
5	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
6	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
7	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
8	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
9	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
10	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度					
実務経験教員の経歴					

②

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	業界実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	藤沼 到		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	100
授業概要、目的、授業の進め方	スケートボードを取り巻く環境について学ぶ スケートボードパーク運営・管理の知識・技術を習得する。				
学習目標 (到達目標)	スケートボードの視野を広げ、環境を整える。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動作解析、アプリ、足裏センサー				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オリエンテーション、授業の進め方				
2	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
3	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
4	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
5	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
6	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
7	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
8	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
9	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
10	スケートボードパークの整備、アイテム制作				
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
出席率・授業態度					
実務経験教員の経歴					

科目名	スケートボード実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山湊・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	100
授業概要、目的、授業の進め方	<p>スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。</p> <p>実習場所：村上市スケートパーク</p>				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	連盟概要説明、インストラクター講習				
2	ライセンス検定概要説明、実技				
3	スケートボードデッキ制作				
4	スクール補助				
5	ライセンス検定受検				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上)</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A(秀 80点以上) B(優 70点以上)</p> <p>C(良 60点以上) D(不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴	日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	スケートボード実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	平野英樹・牛嶋彪・米山湊・小山内修平	実務授業の有無	有		
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	100
授業概要、目的、授業の進め方	<p>スケートボード業界の最新情報、技術を身につける。スケートボードデッキ制作、インストラクターとしての知識、技能を習得する。</p> <p>実習場所：村上市スケートパーク</p>				
学習目標 (到達目標)	スケートボード、アクションスポーツ業界を知り、進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	JSF教則本				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	連盟概要説明、インストラクター講習				
2	ライセンス検定概要説明、実技				
3	スケートボードデッキ制作				
4	スクール補助				
5	ライセンス検定受検				
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上)</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A(秀 80点以上) B(優 70点以上)</p> <p>C(良 60点以上) D(不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴	日本スケートボーディング連盟にて活動				

科目名	アウトドア実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要：多種目のボードスポーツ、アウトドアスポーツを学ぶ 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：学校周辺エリアのアウトドア環境を活かしアクティビティスポーツを行う。</p>				
学習目標 (到達目標)	ボードスポーツに親しみ、視野を広げ知識を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ウェイクサーフィン、SUP				
2	ボルダリング、クライミング				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	アウトドア実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	田地野 晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要：多種目のボードスポーツ、アウトドアスポーツを学ぶ 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：学校周辺エリアのアウトドア環境を活かしアクティビティスポーツを行う。</p>				
学習目標 (到達目標)	ボードスポーツに親しみ、視野を広げ知識を深める				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ウェイクサーフィン、SUP				
2	ボルダリング、クライミング				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	イベント実習Ⅰ			方法	実習
担当教員	大友秀樹、藤沼到		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	学生主体のイベント企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ				
2	スケートボード体験会				
3	学生企画イベント				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	イベント実習Ⅱ			方法	実習
担当教員	大友秀樹、藤沼到		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	2	開講時期	
必修・選択	必修	単位数	-	時間数	120
授業概要、目的、授業の進め方	大会やイベントの運営スタッフとして実習を行う。大会の運営方法を学び、実践力を身につける。主催者側と連携、打合せを行いながら進める。				
学習目標 (到達目標)	学生主体のイベント企画、運営に関する知識・技能を習得する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	X-Games運営スタッフ				
2	スケートボード体験会				
3	学生企画イベント				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。(出席率80%以上) ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅰ			方法	演習
担当教員	藤沼到、田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	18
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	概要：業界の最新情報や職業観を獲得する 目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける 授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う				
学習目標 (到達目標)	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	情報収集、調査				
2	情報収集、調査				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
関心・意欲・態度・技能において評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	企業研修Ⅱ			方法	演習
担当教員	藤沼到、田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	18
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>概要：業界の最新情報や職業観を獲得する</p> <p>目的：業界の動向や働くうえで必要な能力、職業観の知識を身につける</p> <p>授業の進め方：業界人より講和、企業へ訪問し研修を行う</p>				
学習目標 (到達目標)	スケートボード業界、ボードスポーツ分野の理解を深め、他者へ伝えられる能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	情報収集、調査				
2	情報収集、調査				
3	訪問研修				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>関心・意欲・態度・技能において評価を行う。</p> <p>■成績評価4段階評価 100点満点で評価</p> <p>A (秀 80点以上) B (優 70点以上)</p> <p>C (良 60点以上) D (不可 60点未満)</p>					
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップⅠ			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
9	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
10	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップⅡ			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スノーボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
9	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
10	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップ II			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	56
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
2	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
3	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
4	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
5	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
6	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
7	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
8	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
9	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
10	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	インターンシップⅠ			方法	実習
担当教員	田地野晶男	実務授業の有無		無	
対象学科	大学併修研究科・スケートボード	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	112
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
2	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
3	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
4	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
5	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
6	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
7	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
8	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
9	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
10	インターンシップ実習			日誌の作成、報告	
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	インターンシップⅡ			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	112
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	長期休業期間を利用しインターンシップを行う。事前に目的、準備、企業研究を行い参加する。業界理解を深めるだけでなく、就職観、社会性、必要なスキルを経験し進路決定に活かす。				
学習目標 (到達目標)	職業観、実践力を身につけ、業界への理解を深め進路決定に結び付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
2	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
3	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
4	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
5	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
6	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
7	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
8	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
9	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
10	インターンシップ実習		日誌の作成、報告		
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	特別講義			方法	講義
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	18
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	<p>ボードスポーツ業界の動向や取り組みを学び、知識と理解を深める。 業界で活躍するメーカーや企業から講師を招き講義を行う。</p>				
学習目標 (到達目標)	ボードスポーツ、業界のトレンドを知り、探求心や知識を修得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	医療医学分野講義				
2	グローバルメーカー講話				
3	ショップ経営、起業講義				
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

国際スノーボード&スケートボード専門学校

科目名	国際研修			方法	実習
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	80
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、 授業の進め方	ボードスポーツの歴史や文化に触れ、異文化交流体験と理解を深める。 プロスポーツを観戦し、スポーツの関わり方、楽しみ方を学ぶ。				
学習目標 (到達目標)	国際力の理解を深めボードスポーツの視野を拡大する				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	オリエンテーション				
2	事前学習				
3	国際研修、交流、プロスポーツ観戦				
4	まとめ、振り返り				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から 評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	就職研修Ⅰ			方法	講義
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
対象学科	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	6
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動時に必要なスキル、知識を理解し早期活動ができるよう意識を高める。 ホームルームなど関連性を持たせ集中的に実施する。				
学習目標 (到達目標)	就職活動を理解し、自ら活動できる力を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション				
2	就職活動の概要、対策				
3	自己理解、業界理解				
4	履歴書、必要書類作成				
5	企業研究				
6	企業研究				
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価4段階評価 100点満点で評価 A(秀 80点以上) B(優 70点以上) C(良 60点以上) D(不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					

科目名	就職研修			方法	講義
担当教員	田地野晶男		実務授業の有無	無	
。。	大学併修研究科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	—	時間数	12
授業形態	対面授業で実施				
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動の対策をし積極的に活動ができる行動力を身につける。 個別面談、模擬面接、試験対策を実践形式で実施する。				
学習目標 (到達目標)	希望進路先での内定の獲得				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	企業情報収集、模擬面接、対策				
2	企業情報収集、模擬面接、対策				
3	企業情報収集、模擬面接、対策				
4	企業情報収集、模擬面接、対策				
5	企業情報収集、模擬面接、対策				
6	企業情報収集、模擬面接、対策				
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
実習評価表の評価をもとに関心・意欲・態度・技能の観点から評価を行う。 ■成績評価 4段階評価 100点満点で評価 A (秀 80点以上) B (優 70点以上) C (良 60点以上) D (不可 60点未満)					
実務経験教員の経歴					